

平成二十（二〇〇八）年度

日本及び東洋美術史の調査研究報告

中谷伸生

日本及び東洋美術史調査研究班

日本及び東洋美術史の調査研究について

〈資料紹介〉

狩野永泰筆《富山帯雲之図・海右逆浪之図》

（建仁寺久昌院蔵）

中谷伸生

十年間にわたる「妙心寺の建築及び障壁画の調査研究」は、関西大学工学部名誉教授の永井則男（建築史）、関西大学文学部名誉教授の山岡

武部白鳳筆《十二月名画帖》

泰造（美術史）の両先生を中心に続けられてきたが、平成十八年度から

——近代大阪四条派の画帖をめぐって——

柴田就平

は、その方針を引継ぎながら、関西大学文学部教授の中谷伸生（美術史）

森一鳳筆《赤鬼青鬼図》（関西大学図書館蔵）

谿季江

が中心となって「日本及び東洋美術史の調査研究」として続行されている。

今回は、関西大学文学部の中谷伸生（美術史）、日本及び東洋美術史研究班に所属する芸術学美術史研究室の大学院生、柴田就平及び谿季江が参加して行った。再三の調査をお許しいただいた所蔵家の皆様、そしてとりわけ、今回の狩野永泰の調査に快くご承諾いただきました久昌院の野田文外師に心から感謝を申し上げます。